ネパール地震の対応・復興に関してプロジェクトネパールが開催されました（2015/7/5）

場所：東北大学萩ホール

テーマ：ネパール地震，大震災対応，大震災復興

平成 27 年 7 月 5 日に東北大学ネパール学生協会（NepSA）よりネパール地震に関して「プロジェクトネパール」が開催されました。イベントでは、大震災後 NepSA が中心となって行った募金活動等ならびに、他の学内外の団体より NepSA との協力で、このネパール地震に対する対応・復興活動が紹介されました。仙台市民は東日本大震災の経験を経て、ネパールへの共感が強く、予想以上の募金額（約 400 万円）が集まったとのことです。義援金を本当に必要としている人への支援に有効に役立てるために、直接被災地を訪れ、仮設住宅や学校、食料・衣料などの支援物資を購入して配布する努力をしていました。また、募金をネパールの高校生を東日本大震災の被災地に招待する活動や、IsraAID からの仮設住宅建設やこころのケアへの支援なども紹介されました。

東北大学からは山口昌弘国際交流担当副理事からネパールに対する支援の表明があり、災害科学国際研究所からは江川新一教授（災害医学研究部門）とサッパシー・アナワット准教授（災害リスク研究部門）が参加しました。江川教授より、当研究所の紹介、防災の考え方、ネパール地震における保健医療が直面している問題、緊急調査団の派遣と目的等について報告しました。会場からは、2011 年東日本大震災の教訓がネパールにも適用できるかということや、忘れられない災害から心理的な恐怖を軽減するにはどうしたらよいかなどについて質問がありました。

会場には 50 名以上の参加者が訪れ、ネパールへのチャリティー募金、チャリティーオークションなどともに、ネパール料理がふるまわれ、ネパールの舞踊も紹介されました。災害は大変なことですが、ネパールではひとつの運命として受容するという考え方もあります。被災地に住み、学ぶものとして絆をつよめ、少しでも復興に貢献できるよう、緊急調査団としての思いを強くしました。

ネパールからの留学生 Sumit Narharjan さん

会場の様子

緊急調査団について講演する江川教授

入口のネパール紹介パネル

参加者にふるまわれたネパール料理

参加者と主催者で

文責：江川新一教授（災害医療研究部門），
サッパシー・アナワット准教授（災害リスク研究部門）